

文化交流体験報告

【1面から続く】

た。その下では、食事が出た。来る所がありとても面白かったです。他にも庭園に行ったり、駅を使ってみた



後藤さん（写真中央）

り色々な体験が出来たと思えます。

文化交流体験を通して、とても良い貴重な体験が出来ました。

美しい光景

2年次 小池 夏子

9月の7日から10日間、文化交流体験でラトビアの首都リーガと、ドイツのブレーメンへと行ってきました。ドイツはともかくとして、ラトビア、と言われてもパツと思いません。なにより、私自身がそうでした。ですが、現地に到着してすぐにラトビアという国の姿に圧倒

されました。世界遺産に登録されているという、自然豊かで石畳に覆われたリーガの旧市街の町並みは、まるで美しい中世の光景でした。



ペットヒヤー通りのからくり時計

こを好きになるには十分すぎる要素に溢れた街でした。そしてブレーメンで印象深いものは、ブレーメンの人々はその街と歴史を心から愛しているという点

アの大学生ならではの視点から見たラトビアの伝統や文化、学生生活を知ることが出来る、普段では決して体験することができないし、改めてお互いの国のことを良く知る機会になったと思います。

リーガの日本大使館で行った交流会では、時間が過ぎるのを忘れながら様々な話をすることができました。そこで感じたことは、ラトビアの学生はみんなしっかりと将来の夢を持っている、ということでした。「目標のために、今は勉強を頑張っています」という言葉を聞き、今はつきりと「私の将来の夢は…」と、言えない自分が恥ずかしく

なりました。合同授業や交流会は、お互いの国のことを知るだけではなく、自分のこれからのことも考えさせてくれた貴重な時間でした。

交流会の翌日、ドイツのブレーメンへ向かいました。ブレーメンは海沿いにある商業都市というだけではなく、現存する世界最古の市庁舎が世界遺産として登録されている、という非常に歴史のある街です。ハンザ同盟都市として繋がりのあつたリーガの景色と似ていながらも、やはり雰囲気の違いはありました。人が絶えることのない大きな中央駅や、カフェがある市民の憩いの場となっている広場など、そこを好きになるには十分すぎる要素に溢れた街でした。



ブレーメンの音楽隊の銅像

映画で知るケニアの現実

小林 茂氏

文化交流学科講演会

6月29日、文化交流論の授業で講演会がありました。ケニアのストリートチルドレンを題材にした映画「チョコラ」。その監督である小林茂氏をゲストに招き、ショートバージョンの上映後に、フリートークを行いました。

◆今日、生きていくことが表現することだという言葉がとて心に残りました。映画の中に出てくる子どもたちから、生きることは本当は簡単なことではないこと、自分がどれだけ周りの人々のおかげで生きていられるのかを感じる事が出

です。これは日本とも共通しているように思えますが、ブレーメンでは日本よりもそれがとても自然であるように感じました。二つの国で過ごした日々はとても短いものでしたが、非常に密度がある十日間でした。この体験で感じたこと、学んだことは決して忘れずに、必ずこれからの自分の糧にしていきたいと思えます。同時に、この授業に参加できたことを心から嬉しく思います。

来ました。現実と向き合う

◆小林さんの映画を観て、あれがアフリカのストリートチルドレンのありのままの姿なのかと思うと、とても心が締め付けられた。まだまだ幼い子どもなのに、表情や言葉の一つ一つに重みがあり、とても私たちがしてきたことのない体験をしてきたのだと思えました。歌やダンスを踊るときは無邪気なように見えましたが、歌詞の内容はとても残酷でかわいそうな内容でした。この子ども達が頑張っているのを見て、私たちが現実と向き合っているかと思えば、生きていかなければならないと思えました。



小林茂氏

贅沢な問題

◆ラストの子供たちが歌って踊るシーンがひどく印象に残った。あんなに悲しい歌詞なのにどうしてそんなに笑顔なのだろうか？と疑

沖繩交流会報告

【1面から続く】

いについて話したり、沖繩について教えてもらったりしました。観光の形では知ることのできない、本場の沖繩の姿を見ることができるとように思いました。

沖繩大学の学生と交流して
4年次 前野 智美

また、沖繩大学の人たちの考え方の違いや、やる気の違いにもカルチャーショックを感じました。沖繩大学の人たちは、沖繩の伝統である三線や踊りなどを学んで、たくさんの人を知ってもらいたいという

また、沖繩大学の人たちの考え方の違いや、やる気の違いにもカルチャーショックを感じました。沖繩大学の人たちは、沖繩の伝統である三線や踊りなどを学んで、たくさんの人を知ってもらいたいという

私は、8月25日から8月30日まで沖繩への研修旅行で、沖繩大学と明治大学の学生と交流を深めてきました。

自分がどれだけ狭い視野で周りをみていたかに気づかされました。私は沖繩に行く前までは、同じ大学生なのだから、私たちと変わりはないだろうと感じていました。しかし、実際に交流したことによって、自分か住んでいる県のことをいかに自分が知っていないかということも思い知らされました。



沖繩大学の学生と交流 上杉さん(写真右端)

初日から明治大学の人達とは夜ご飯を食べ交流を深めました。初めて会ったということもあり、なかなか打ち解けることができませ

初日から明治大学の人達とは夜ご飯を食べ交流を深めました。初めて会ったということもあり、なかなか打ち解けることができませ

すが仲良くなることのでき、最終的には自由行動を一緒に過ごす友達まで出来ました。

沖繩大学のみなさんとは一日だけでしたが、ペンションでBBQをし、三味線や踊りなどを披露してく

すが仲良くなることのでき、最終的には自由行動を一緒に過ごす友達まで出来ました。

自由行動では、いろいろな場所へ行きまいた。沖繩の歴史を知るために、「旧海軍司令部壕」や「ひめゆりの塔」、「平和祈念公園」など、沖繩戦の怖さや悲惨さを改めて実感しました。今では観光地で人気の沖繩ですが、昔の戦争の悲惨さを忘れずにいることも大切だと思います。

この他にも渡嘉敷のビーチで泳ぎ、魚が見えてみんなテンションが上がったり、美ら海水族館や備瀬海が目の前に広がる浜辺の茶屋など北部から南部まで沖繩を満喫することができました。

他県の学生との交流を含め、本当に充実した六日間を過ごすことができ、出逢った人や一緒に行つたみんなにとっても感謝しています。



3日間参加した前野さん(写真中央)

間に思った。子供たちがシ改めて感じた。今回、小林ンナーやタバコを吸わなくさんの話を聞けて良かったです。

◆彼らの強さ

◆チョコラを観て現地の子どもたち



どもたちは日本の子どもたちよりも精神年齢が高いとゆうか高くなるが得ないのかなと思いましたが、でも本当はものすごく

く傷ついているだろうし、本当に彼らの強さは見習わなければならない。今の自分の悩みがとてもなくだらな

◆「生きる喜び」

◆私たちが日本で何不自由なく生活している間にも、あのような生活をしている人たちがいると思うと、本当に胸が痛くなる。一方で貧しい中でも一生懸命生きる少年たちや、エイズで先が長くないと知りつつも希望をなくすことなく生き続ける女性から「生きる喜び」と「生命の輝き」を感じることができた。



森謙二先生が指導されている明治大学のゼミの沖繩旅行と日程を合わせ、本学の学生と交流会をしました。



小林さんが見せてくれたボトル。「これでシナーを吸うんです。」



映画のシナー

カンボジアの文化と宗教

やサッカーをして遊んだり、市場へ買出しに行ったり、洗濯物をしたり。サイという蹴鞠みたいな遊びなどカンボジアの遊びも教わりました。

むこうのアリは日本のアリより小さいくせにかまれるとものすごく痛く、水ぶくれみたいになります。突然のスクールの中、服を脱ぎ捨ててシャンプーもしました。市場はお祭りの模擬店の集まりみたいな感じで昔よく行った駄菓子屋を思い出おこしました。むこうは街灯がないせいか暗くなるのが早く六時にはもう真っ暗でした。明かりといえばバッテリーにつないだらイトとロウソクと懐中電灯くらいです。

カンボジアのご飯を食べられるか不安でしたが、友好学園の管理人さんの作る料理はおいしかったです。タイ米はすかすかしてて全然おなかにたまらず二〜三杯は当然のようにおかわりしていました。おかずは汁物と炒め物が一品ずつで汁物は具は変わるもののベースの味はいつも一緒だった気がします。気のせいかもしれませんが。

9月29日、アンコール大学の副学長、申ホチヨル先生(韓国人)をお招きして、カンボジアの文化と宗教について講演会がありました。お話の内容は、カンボジアで有名なアンコール王朝以前に存在した王朝



申ホチヨル先生

何故、このボルボト政権が誕生し、学者や先生といった知識人達を殺害する『キリングフィールド』を作ったのか。

その後それらの王朝が築き上げてきた文明を破壊したボルボト政権についてです。まず、最初にカンボジアの一世紀にフナン王国というものが作られ、その5〜6世紀後にフナン王国が紛争により国力が削られ、チェンラという国が作られる。この王国の歴史は長く、中世まで国力を維持し、その後アンコール王朝が登場、シアヌーク時代を経てボルボト政権が生まれました。

お風呂は大きなたらいに井戸で水を汲んでクロマーという布を腰に巻いて、外でそのたらいにためた水を浴びる感じでした。今考えてみると自分にとってはポランティアというよりは社会科見学だった気がします。日本じゃできない、カンボジアじゃなきゃやできない体験をいっぱいしました。いろんな話を聞いて、いろんなものを見る

て、日本が作ったという道路や橋も見たと実感通つたし、そういう意味では目標達成できたかなって思います。こういう貴重な体験をさせて頂いて先生には本当に感謝です。そして一緒に生活したメンバーの方々に。来年はもつと発展して暮らしやすいなってると思います。機械に頼りきってない人間味のある生活ができ

(編集部 長谷川)

(食物健康科学科)

IT社会と情報管理の現状

～「内部から」の侵入による情報漏洩と身近にあるIT技術～



川崎建雄氏



館岡司氏

6月12日、IT表現論とセキュリティと情報技術の授業との合同で、日立製作所日立事業所総務部長館岡司氏、日立情報政策課主幹川崎建雄氏のお二方を招きし、IT社会の現状や情報管理方法についてのご講演がありました。

この他に、「情報漏洩を未然に防ぐにはどうしたらよいか?」についての内容が記載されている『情報セキュリティガイドブック』というものを日立市の研修生に配布しているとのことでした。

昨年は、「セキュリティと情報技術」という形で行われ、情報漏洩についての問題が浮き彫りになってきているということが川崎建雄氏によって指摘されました。今回の講演会では情報共有ソフト・ウィニーを使った情報漏洩の問題が取り上げられました。

今日、ITが私たちの身近な場所まで広まる中で、どのように自らが情報を守っていくのか。情報管理の重要性を感じました。

今までは、情報を含んだ鞆やPCを持ち去られ情報を「外部」から盗まれてしまうといったケースが多かったのが、現在ではこの情報共有ソフトを通じて、「内部」から侵入され気がつかぬ間に情報が盗まれるケースが問題になっていきます。

また、このIT技術を生かして「技能オリンピック」がこの日立で行われるというお話を聞き、IT社会の波がより、身近なものになるのではと、私自身感じました。

(編集部 長谷川)

堀口 悟先生ロングインタビュー

前篇

今号から前篇、後篇と2回にわたって堀口先生のインタビューをお伝えします。前篇では、香道や日本文化について、和の心を感じられるような内容となっています。知らなかった先生の学生時代の話などもお読み頂けます。

道の文化

◆香道とはどのような世界でしょうか。

香道は日本の伝統文化です。室町時代、今から五百年ぐらい前です。茶道・花道・香道がほとんど同時にできます。その中のお茶やお花をやっている人は今もたくさんいるんですけど、当時は香道も非常に

盛んだったんです。お茶とお花とお香の中で一番忘れられているので、それを研究しています。

香道にとっては、お香そのものも大事ですけど、良い匂いを嗅ぐことによつて心を落ち着かせ、お香を通して自分の生き方を考えていくというような性格があります。その点でも、茶道と似ています。日本の文化の特色として、大きく「道

の文化」っていうのがあって、何かを通して精神的に高いものを求める文化があるんです。他には、和歌や能なども、やっぱり道を求めるんですね。

◆現在でも癒しとしてお香を焚いたり、「香り」が流行っています。そういうものと関連はありますか。

新しいものでは例えば剣道とか柔道とか。剣道も、人斬りのためにやるのではなく、剣の道を通して人間の生き方を極める目的があります。最近では野球なんかも野球道とかね。野球は技術的に上手くなるというのは大事だけど、それを通して個人の精神力を高めた

大いにあります。香道では、香りの元の香木も、香りを鑑賞する様式も極めて洗練されていますが、良い匂いを楽しんだり、心が癒されたりするのは、最近流行しているお香の文化と全く同じです。

高い文化レベル

例えば千年前の平安時代は、文化が高度に洗練された時代ですが、その時は、香りの癒し効果がいろいろあったことが知られています。それがまた最近文化が進んできて重視されている感じがします。50年ちょっと前の戦争中や戦争直後は、あまり香水をつけるとか、お香の癒しなんか問題にされなかった。それどころか、戦争中に「癒し」なんて言うと、「軟弱なこと言うな」と怒られたと思いますよ。

それは、そういう文化だったのでしょうけど、私はあまり良い文化だと思っ

ていないですね。やっぱり平和で、本当に自分の生き方を見つめられるような文化が、良い文化だと思ってるので……。そんな中で今の若い人たちも香りに興味を持ってるのはとてもすばらしいと思います。その香り文化の長い伝統に支えられて、高い文化レベルに到達しているのが、現在の香道です。

先ほど、香道が道の文化になり始めるのが室町時代と言ったのですが、お香そのものは奈良時代以前からありました。現在と形は違いますが。日本の歴史の一番古い文献である『日本書紀』から書かれています。また、香道は文学とも関係していますので、それも癒しに繋がるとかと思えます。

まずはカルタですね。日本語が全然出来ない人に日本語を教える時はカルタが便利です。いろはカルタからやります。それぞれの札に、ひらがな(いろはにほへ)一字が大きく書いてありますし、絵も書いてありますので、外国の人にも分かり易いです。ひらがなを覚えてもらうのにやっています。カルタ取りのゲームなら、自分の近くにある札を何とか取ろうとしますから、ゲームの間中、その文字を暗記し続けることになります。楽しみながら繰り返し徹底的に暗記することができます。「いろはカルタ」を卒業したら、「小倉百人一首」のカルタ取りをします。これは取り札に何字も書いてありますし、百枚ありますから、これでゲームをしながら、たくさんひらがなを覚えることができます。また、読む方の札には絵が描いてあります。これを見ると日本の昔の風俗がわかります。綺麗な絵なので、日本の伝統的な絵画芸術にも触れてもらえます。そして、小倉百人一首に



合いで協調性とか自分の人格そのものを高めるとか、何かこう自分の求める姿を何かを使って実践していくというのが道の精神です。それが、たまたまお茶であったり野球であったり。そういう、日本の道の文化の一つが香道の世界なのかなと思います。

何かを通して

求める姿を考える

やはり癒しの文化は大事だと思えますね。学生のためにも、ストレスが多い社会ですから、癒しに繋がればと願って授業でもやっていますね。自分個人としては、癒しのためというより、ただの趣味でやっています。が……。ですが癒し効果はともあると思います。

それは、そういう文化だったのでしょうけど、私はあまり良い文化だと思っ

日本の芸術品

◆海外の人に日本文化を紹介するなら先生なら何を紹介しますか？

まずはカルタですね。日本語が全然出来ない人に日本語を教える時はカルタが便利です。いろはカルタからやります。それぞれの札に、ひらがな(いろはにほへ)一字が大きく書いてありますし、絵も書いてありますので、外国の人にも分かり易いです。ひらがなを覚えてもらうのにやっています。カルタ取りのゲームなら、自分の近くにある札を何とか取ろうとしますから、ゲームの間中、その文字を暗記し続けることになります。楽しみながら繰り返し徹底的に暗記することができます。「いろはカルタ」を卒業したら、「小倉百人一首」のカルタ取りをします。これは取り札に何字も書いてありますし、百枚ありますから、これでゲームをしながら、たくさんひらがなを覚えることができます。また、読む方の札には絵が描いてあります。これを見ると日本の昔の風俗がわかります。綺麗な絵なので、日本の伝統的な絵画芸術にも触れてもらえます。そして、小倉百人一首に



小倉百人一首

あとは何だろう：アルバイトも余りしてないしね。アルバイトはいくつ

自分のことに戻ります。アルバイトをしないから、本を買うのにお金もなく、それでも本が好きで読

書いてあるのは、日本伝統の詩、つまり和歌です。これは、どんなに少なく見積もっても千五百年は続いてる文化ですから、これに親しんでもらえることは、日本文化を理解する上で大変重要ですよ。

それに、江戸時代に作られた百人一首カルタ札というのは文字・絵画・工芸の粋を尽くした芸術作品でもあるので、こういった日本の真の芸術品を見たいんですね。カルタひとつを通してゲームで楽しみなから、日本の深い文化にも触れることができます。

なので、まず教えたいと思うのはカルタですね。

学生時代

◆学生時代は何をされていましたか？

私は何をやっていましたか？ (笑) 大学一年の時、クラシックギター部に入っていたんです

か経験したけれど、時間ももったいなかったですね。

砂糖もないと「水とパン」

皆さん、学生時代にアルバイトをやるのは本当にもったいないですよ。目的のためにお金を貯めるなら一つの投資だし、学費が無

いから稼ぐというのなら仕方ないけれど。店長に言われるがままに残業するなんて、自分の命を削って提供しているようなものですよ。学生時代は貴重な時間

です。たつた4年間なのにそれが一生を決める資本になるんですから。大学4年間で就職先が決まり、就職しては一生同じような分野で働く人がほとんどでしょう。就職先によって生涯賃金が億単位で違うのに、時給千円でそれを犠牲にし

知識や体験の幅を広げられた

砂糖もないと「水とパン」

むので、月末になると、だんだん食べ物がなくなってくるんです。それで、食パンを一斤買って、一日に半分ずつ食べる。そこに、せめて砂糖をかけられたら良いんですけど(バターなどない)、砂糖も底をつくの

で、最悪「水とパン」とかね。コーヒードrinkも飲むけど、砂糖を買えないのでブラックコーヒー。昼もラーメン、夜もラーメンを食べていたら体を壊しそうになりましたね(笑)。インスタントラーメンは食べ続けると体を壊すということが分かりました。それでも、いよいよお金がなくなると、本を

売らんです。古本屋さんに行つてカッ井屋さん行く。「豪華な食事」をするときは古本屋経由がありました(笑)。

ところで、人間は追いつめられると一番大事なものを売りたいくなるんですね。大学2年の時、ギター部を辞めたけれどしばらく弾いていたので、お腹が空くと

妙にギターが目に入るので、追いつめられましたね(笑)。私が属していたギター部は毎年プロのギタリストを出すようなレベルだったので、1年生でもちゃんとしたギターを買ったんです。このギターが「一番高いよなあ」とか思ったりしてね。何とか売らずに踏みとどまりましたが。

下宿を追い出されて

とにかくそんな貧乏な生活でした。4畳半の部屋で、トイレの隣でキッチンなしの真四角な部屋で、隣の部屋とは襖一枚で繋がっているという状況でね。それで、本を買いすぎてその下宿が傾いてですね、追い出されました(笑)。下宿のおぼさんがそれに気付かないうちは良かったんだけど、そのおぼさんが内職で新聞の折り込み広告なんかを挟む仕事を始めて、それを部屋に置いたら、おぼさんの家が重さで沈み始めたんですよ。それをきつかけに気付かれて、おぼさんが私の部屋まで来て「堀口さん! 床(ゆか)曲がつてませんか!?」って言われてね。それが4年生の時だったけ

れど、追い出されましたね(笑)。皆さんに申し上げます。バイトはやるべし、でも、極力早く止めるべし。

心の抵抗と闘いながら

◆日本語を教えることはいつ頃から始められているのですか？

実は日本語教師をやってみないと、自分から思った訳ではなかったんです。文化交流学科を作るといふので、そうすると留学生が来るでしょう。日本語を教える必要はないということとですよ。その役目を依頼されてからです。

私は日本文学の教師でしたし、国語の免許を持っていました。それで、依頼の趣旨は「日本語ぐらい教えられるだろう」というわけ

です。これは、誤解です。私は、国語教師と日本語教師が違うという事は知っていたのですが(実際に国文学を長年教えていても、それまで日本語教師には一人も会ったことがなかったのですから)、思っていたより、ものすごく違っていて、びっくりしました。

日本語教育は、外国でも日本でも「外国語としての日本語」を教えるのですから、むしろ英語・ドイツ語等の外国語の先生なんかの方が近いんです。

そこで、日本語教師を始めてみたら、それまで自分で持っていた本の中で、日本語教育にも使える物は一冊しかありませんでした。

通信販売で間違つて買ってしまつて本棚の隅に棄てておいた『日本語教育辞典』という本。あとは、全部新たに、本を買わなきゃいけないようなことでした。

そういうのがきつかけですね。それに、文学は大好きですけど、語学とか文法とかは大の苦手だったものですから、最初は、やむを得ず、心の抵抗と戦いながら始めました。

でも、結果的には、自分の知識や体験の幅を広げることに関わりました。今は、その重要性や面白さが良くわかって、正反対の気持ちになりましたが……。

(後篇に続く)

就職活動報告

内定獲得！
履歴書の完成度を高めることが重要

4年次 鈴木 英二

去年の11月から行っていた就職活動もようやく終わりを迎えることができました。先月、茨城で展開しているサービスの企業から内定をいただくことができました。今年もあつという間に10月へ突入し、気づけば一つ下の後輩達が就職活動をする時期になりました。そこで、今年から就職活動をする3年生達に僭越ながら私なりのアドバイスを送らせていただこうと思います。

私は様々な企業を受けましたが、ほとんどの企業で1次落ちという結果でした。原因を探ると、答えは履歴書にありました。そのお陰で、面接すら受けることができなかったのです。文章だけで落とされると、いくら志願度が高くても低くても不完全燃焼で終わってしまいます。それは勿体ないし、やる気も削がれてしまうので、早い段階で履歴書の完成度を高めておくことを心の底からお勧めい

でも多く参加しておくという事です！

就職活動を嫌だと思っても多いかもしれませんが、活動の中で新たな自分を見ることができるかもしれません。世間では就職難だと言われていますが、あまり気にしてしまつと、焦りが生じてしまいます。良い結果は生まれませんと思えます。自分の将来を決める大事な時期です。頑張ってくださいね！

新商品、続々入荷！

アジアンバザール

今年も、11月2・3日 10号館にて
ちよつと一息つける、カフェも出店

毎年10号館で開催している学園祭アジアンバザールが、今年も例年よりさらにバージョンアップしました。タイ・カンボジア・ベトナムの三カ国に加えて、今年はインド・ラオスも登場。ますます幅を広げ、いよいよ文化交流らしいアジアンショップになります。

入りの甘いミルクティーなので、「コーヒーは苦手!!」という方でも楽しんでいただけます。そしてスタッフの念願だったココナッツプリンが今年も新しい目玉として登場する予定です。そしてやつぱり注目していただきたいのが、この企画の基となっている、カンボジア日本友好学園での日本語・英語教育ボランティアの活動を記録した写真たちです。アジアンバザール

「忘れたいことを話してくれて
ありがとう」—Cocco
映画『ひめゆり』上映決定！

本学と沖縄大学との交流会が、今年も沖縄大学で行われます。それに合わせ、沖縄戦をテーマに本学で『ひめゆり』を自主上映します。

今回、映画『ひめゆり』を本学で自主上映することになりました。ひめゆり学徒隊という名前があまりにも有名ですが、それが一体何なのかを知る人は少ないと思います。

『ひめゆり』は、沖縄戦で軍の看護にあたつたひめゆり学徒隊の生存者の証言で構成されたドキュメンタリー、ぜひご覧下さい。

「4年次 小松令奈」

の店舗内の至る所に展示したり、一人ひとりの思いがこもつたアルバムをカフェ内に設置しておきます。少しでも興味のある方は是非足を運んで欲しいと思います。

アジアなんて興味ない！



アジアンバザール おもちゃ、バッグ、アクセサリーやスカーフ、おしゃべりシューズ、それからスイーツも、なにかしらにまでアジアンです。

映画『ひめゆり』

2009年12月19日(土)

本学 8101 教室にて上映

『ひめゆり』を運営する実行委員を募集中！

問い合わせはC科4年小松まで

rejin_0326@hotmail.co.jp



編集後記

ポール・ゴーギャンの面を知っていますか？ 東京国立近代美術館で開催された展覧会に、私も行ってきました。「われわれはどこから来たのか われわれは何者か われわれはどこへ行くのか」—たぐさんの人がこの作品を見つめる姿に、芸術の持つ力を感じました。(佐々木)

■ロンゴロンゴ卒業生です。編集作業はしていませんが、大学時代が懐かしい。学校というくくりの中で一番思い出深い時間ですね。うんうん、バイトは時間があったいんです。堀口先生、同感です。(亜希子)

■本号は一月遅れでやっと目の目を見ようとしています。定期刊行物が不定期になるというのは致命的な気もしますが、なりゆきでそうなるしまったのだからしょうがないという気もします。こういうことが許されるのは学校という空間だからかとも思いますが、最近世の中もそうなるようなので、そこが恐ろしい。(藤田)

ロン「ロン」とは南太平洋ポリネシアの

イースター島で昔作られていた「物を言う板」です。この板には文字のようなものが書いてありました。この文字はまだ解読されていないそうですが、この島の人人々に歴史や情報を伝える板でした。